

# 自尊感情が情報に対する興味の方向性に及ぼす効果<sup>1)</sup>

森上 幸夫 西迫 成一郎 桑原 尚史<sup>2)</sup>

The effect of self-esteem on sought information structure

Yukio MORIKAMI\*  
Seiichiro NISHISAKO\*  
Takashi KUWABARA\*\*

## Abstract

Nishisako, Morikami and Kuwabara(1996) indicate that sought information structure consists of the information about present self, the information about future self, the information about others, the information about daily life, the information about society, the information about mystical phenomenon. The purpose of present study was to investigate the effect of self-esteem on the intensity of interest for information. Investigation is carried out by using 160 undergraduate students. The analysis and result were as follows. Firstly, the effect of self-esteem on six each factor of sought information structure was examined by analysis of variance. However, there were no significant main effect. Secondly, the effect of self-esteem on each item of sought information structure was examined by analysis of variance. The result is that, there were several significant main effects.

---

\* Faculty of Sociology, Kansai University \*\* Faculty of Informatics, Kansai University

1) 本研究は、平成8年度関西大学重点領域研究の助成を受けた。

2) 本稿をまとめるにあたり、貴重な御意見ならびに御示唆を頂きました関西大学社会学部名誉教授廣田君美先生、広島大学総合科学部教授黒川正流先生、熊本大学教育学部教授鈴木公平先生、大阪女子大学学芸学部教授藤田正先生、広島大学総合科学部助教授浦光博先生、静岡県立大学国際関係学部助手西田公昭先生、広島大学総合科学部講師坂田桐子先生、大阪国際女子大学助教授岩淵千明先生に深く感謝致します。

人がいかなる情報を求めるかは、状況に強く依存している。それは、人が所与の状況においてより適切に行動しようとするためにほかならない。

これを問題解決過程 (problem solving process) としてとらえれば、その過程には、状況を認識する処理、状況に自己を位置づける処理 (self-perception)、期待と現実とのずれを発見し問題を認識する処理、そして、その問題を解決する手段あるいは方法をみだし、それを実際に実行していくといった処理が機能すると想定される。すると、人がいかなる情報を求めるかは、人がいかなる問題を認識しているのか、また、その問題解決過程がいかなる処理段階にあるのかによって規定されると考えることができよう。

それでは、人は、いかに問題を認識するのであろうか。Duval & Wicklund (1972) および Wicklund (1975) の提唱した客体的自覚理論 (objective self-awareness theory)、またその精緻化を試みた Carver (1979) および Carver & Scheier (1981) の制御理論 (control theory) に依拠すれば、人が自己に注意を向け (self awareness)、自己の行為なり現在の自己のあり方が、その個人の有する適切さの基準 (standards of correctness) を下回っていた場合に何らかの問題が認識されるといえる。

すると、いかなる問題が認識されるのかは、まず、自己のいかなる側面に注意が向けられるのか (self-focused attention) によって異なってくる。たとえば、自己の内的側面に注意が向けられるのか (private self-consciousness)、それとも自己の外的側面に注意が向けられるのか (public self-consciousness) によって (Fenigstein, Scheier & Buss, 1975; Buss, 1980)、認識される問題が異なることは十分予想されるところである。

さて、次に、自己の何らかの側面に注意が向けられた場合、そこでいかなる問題が認識されるのかは、状況との関連において自己の適切さをいかに判断するか (self-monitoring) に係っている。それは、その個人が当該の状況においていかなる適切さの基準を有しているのかに依り、その基準は、個人がいかなる規範、価値意識、目標、欲求、および期待を有しているのか、また、いかなる他者と社会的比較を行うのか (Festinger, 1954) によって規定されると考えられる。しかし、自己の適切さに関わる判断は、この基準との照合結果のみから説明しうるものではない。なぜならば、この判断過程には特有の偏向が生じることがみいだされているからである。

それには、たとえば、自己に対する認知と適合する情報はより深く処理され、自己に対する認知と適合しない情報に対しては抵抗が生じること (Markus & Wulf, 1987)、自己に対する認識を確証 (self-verification) する情報にはより多くの注意を向け、その情報をより深く処理すること (Swann, 1983)、自己にとって望ましくない情報を回避する傾向があること (Greenwald, 1980)、自己の行動を解釈する際、その原因を自己防衛的に (ego-defensive attribution)、また自己に都合よく解釈する (self-serving attributional bias) 傾向があること (e.g. Zuckerman, 1979)、自己高揚 (self-enhancement) 欲求あるいは自己防衛 (self-defense) 欲求が強まると下方比較 (downward comparison) がなされること (Festinger, 1954; Wilson & Benner, 1971; Friend & Gilbert, 1973)、適切さの基準への適合 (matching-to-standard) が不可

能であるという結果の予測 (outcome expectancy) がなされると、自己注目の回避 (avoidance) が行われる (Carver, 1979) といった現象を指摘することができる。

なぜ、このような現象が生じるのかは、次の2つの観点からの説明が可能である。ひとつは、認知的斉合性 (cognitive consistency) からの解釈であり、人には認知に斉合性あるいは一貫性を求める傾向がある (e.g. Festinger, 1957) が故に、人は自己に関する認知と不協和 (cognitive dissonance) を生じる情報を回避するという説明である。もうひとつは、自己評価 (self-evaluation) の観点からの解釈であり、人には一定の自己評価を維持しようとする (self-evaluation maintenance) 傾向がある (e.g. Tesser, 1988) が故に、自己評価の低下を招く情報は回避されたり、その解釈に歪みが生じるという説明である。

すなわち、われわれは、自己に関する知識を体系化し (self-schema)、自己の特徴を把握し (self-concept)、自己の全体像 (self-image) を形成し、それに対して評価を行っているのである。そして、われわれは、その自己に対する認識に基づき、なおかつ自己に対する評価を一定の水準以上に保つように、現在の自己を認識しようとしているのである。

すると、人がいかなる問題を認識するのかは、その個人が自己をいかに認識し、自己をいかに評価しているかによって変化するといえる。

そこで、ここでは、自己に対する評価が問題解決過程にいかなる影響を及ぼすのかを考えてみると、まず、問題を認識する過程においては、自己に対する評価が高い個人は、自己に対しての高い評価は快感情を喚起するが故に、自己に対する高い評価を確証しようと、自己に関する情報 (self-relevant information) を積極的に求め、自己を状況に位置づけようとするのに対して、自己に対する評価が低い個人は、自己に対する低い評価は不快感情を喚起するあるいは自己に脅威をもたらすが故に、自己を状況に位置づける情報を回避すると考えられる。したがって、自己に対する評価の高い個人は、自己に対する評価の低い個人と比較して、問題を認識する頻度が高いと予測される。

また、たとえ、同一の自己に関わる情報を処理したとしても、自己に対する評価の高い個人は、自己に対する評価の低い個人と比較して、適切さに対して高い基準を有していると考えられる。したがって、自己に対する評価の高い個人は、自己に対する評価の低い個人と比較して、問題を認識する確率が高いと予測される。

さらに、問題を実際に解決していく過程に視点を移してみると、問題が認識された場合、自己に対する評価が高ければ、その解決に対して肯定的な期待が生じ (self-efficacy)、問題の解決が試みられる (assessment process) 確率が高いのに対して、自己に対する評価が低ければ、解決に向けて否定的な期待が生じ、問題からの回避あるいは自覚状態からの回避がなされる確率が高いと考えられる。したがって、たとえ、同一の問題を認識したとしても、自己に対する評価の高い個人は、自己に対する評価の低い個人と比較して、問題の解決へと向かう確率が高いと予測される。

しかし、一方、同一の問題が認識された場合、自己に対する評価が高い個人は、自己に対す

る評価が低い個人と比較して、自己に対する評価を低下させる度合いも大きくなると考えられる。もし、それが自己との不一致 (self-discrepancy) を呼び、自己に対する評価を著しく低下させるとなれば、自己評価を維持する機制あるいは自己を防衛する機制が働き、問題からの回避がなされると予測される。

最後に、問題を実際に解決する過程について考えてみると、自己に対する評価が異なれば、それに基づいて生成される解決方略は必ずと異なってくると考えられる。したがって、自己に対する評価が高い個人と低い個人では、異なる解決方略が用いられると予測される。

以上、みてきたように、自己に対する評価は、いかなる問題が認識されるのか、またその問題の解決がなされるのか否か、そしてその解決に向けていかなる方略が用いられるのかを方向づけると予測される。すると、当然、求められる情報もそれに伴い大きく変化すると予測される。そこで、本研究においては、自己に対する安定したかつ総体的な評価 (Rosenberg, 1965; Coopersmith 1967; Brown & Mankowski 1993) を表す自尊感情 (self-esteem) をとりあげ、自尊感情が情報に対する興味にいかなる影響を及ぼしているのかを包括的に検討することを目的とする。

## 方 法

材料：まず、自尊感情を測定する尺度と、情報に対する興味を測定する項目を用意した。自尊感情を測定する尺度には、山本・松井・山城 (1982) の日本語版自尊感情尺度の10項目を用いた。情報に対する興味を測定する項目に関しては、西迫・森上・桑原 (1996) が情報興味空間を分析する際に用いた項目を興味測定項目として用いた。彼らは、人が求める情報の集合を情報興味空間と呼び、その構造を分析するために、大学生を調査対象として、いかなる情報を求めているのかを収集し、それを因子分析の手法を用いて分析している。そして、その結果、現在自己関連情報因子、将来自己関連情報因子、他者関連情報因子、生活関連情報因子、社会関連情報因子、神秘的事象関連情報因子という情報興味空間を構成する6つの因子を抽出している。本研究においては、このそれぞれの因子に高く負荷する計65項目を情報に対する興味を測定する指標として用いた。この65の項目は、現在自己関連因子に負荷する10項目、将来自己関連因子に負荷する9項目、生活関連因子に負荷する23項目、他者関連因子に負荷する8項目、社会関連因子に負荷する9項目、そして神秘的事象関連因子に負荷する5項目より構成される。

また、本研究においては、自尊感情以外の特性と情報に対する興味との関連性を併せて検討するために、自己意識特性を測定する尺度、不安を測定する尺度、および認知欲求を測定する尺度を質問項目に加えた。自己意識特性を測定する尺度には、岩淵・田渕・中里・田中 (1982) の日本語版自己意識尺度を用いた。この尺度は、私的自己意識を測定する11項目、公的自己意識を測定する5項目、そして社会的不安を測定する6項目の計22項目より構成されている。不安を測定する尺度に関しては、清水・今栄 (1981) の日本語版状態-特性不安尺度を用いた。

この尺度は、状態不安を測定する20項目と特性不安を測定する20項目の計40項目より構成されている。そして、認知欲求を測定する尺度に関しては、神山・藤原（1989）の日本語版認知欲求尺度の15項目を用いた。

手続：計152項目の質問項目を質問紙にて被験者に呈示し、それぞれの項目を評定するように求めた。興味測定項目については、それぞれの項目に記述してある情報をどの程度知りたいと思うかを、“まったく知りたくない(0)”から“ひじょうに知りたい(6)”までの7段階で評定することを求めた。また、自尊感情尺度に関しては、それぞれの項目に記述してある内容に自分がどの程度あてはまるかを“あてはまらない(0)”，“ややあてはまらない(1)”，“どちらともいえない(2)”，“ややあてはまる(3)”，“あてはまる(4)”の5段階で評定することを求めた。そして、自己意識尺度については、その項目に記述してある内容に自分がどの程度あてはまるかを“まったくそう思わない(0)”から“ひじょうにそう思う(4)”までの5段階で評定することを求め、状態-特性不安尺度の状態不安を測定する項目については、記述してある内容に現在の自分がどの程度あてはまるかを“まったくそうでない(0)”，“いくぶんそうである(1)”，“ほぼそうである(2)”，“まったくそうである(3)”の4段階で評定することを求め、特性不安を測定する項目については、記述してある内容に普段の自分がどの程度あてはまるかを“決してそうでない(0)”，“たまにそうである(1)”，“しばしばそうである(2)”，“いつもそうである(3)”の4段階で評定することを求め、認知欲求尺度については、記述してある内容が自分にどの程度あてはまるかを“まったくそうでない(0)”から“ひじょうにそうである(6)”までの7段階で評定することを求めた。

被験者：男子80名、女子80名の計160名の大学生を被験者として用いた。

### 結果および考察

まず、被験者を自尊感情尺度の合計点の平均値を基準に、自尊感情高群と自尊感情低群に分け、自尊感情が興味測定項目全体に及ぼす効果をみるために、自尊感情高群および自尊感情低群の1項目あたりの平均評定値を算出した。Table 1 に示すように、両群の間にはほとんど差がみられず、t検定を行ったところ、両群間に有意な差は認められなかった ( $t=0.28, df=158$ )。

次に、自尊感情が、情報興味空間を構成するそれぞれの因子に対する興味に及ぼす効果を検

Table 1 自尊感情高条件と自尊感情低条件の平均評定値

条件	人数	現在自己 関連因子	将来自己 関連因子	他者 関連因子	生活 関連因子	社会 関連因子	神秘的事象 関連因子	情報興味 空間全体
自尊感情高条件	84	4.29	4.60	3.04	4.41	4.06	2.82	3.99
自尊感情低条件	76	4.37	4.53	3.11	4.40	3.96	2.52	3.96

Table 2 自尊感情高条件(n=84)と自尊感情低条件(n=76)の各項目の平均評定値および標準偏差

項目	自尊高条件		自尊低条件	
	Mean	(SD)	Mean	(SD)
1	ある商品の発売日	3.66 (1.48)	3.72 (1.66)	
2	あるものの値段について	4.11 (1.25)	4.36 (1.31)	
3	電車、バスの時刻	4.35 (1.45)	4.11 (1.67)	
4	地理、道路について	4.02 (1.46)	4.02 (1.46)	
5	観光地、プレイスポット、タウン情報について	4.41 (1.40)	4.38 (1.31)	
6	今日のテレビ番組について	4.11 (1.43)	4.22 (1.42)	
7	休講に関連することについて	5.52 (1.03)	5.30 (0.93)	
8	ギャンブルの勝ちかた	4.21 (1.85)	4.23 (1.92)	
9	先生の成績のつけ方について	4.96 (1.11)	5.06 (1.21)	
10	免許、資格の取り方	4.89 (1.04)	4.96 (1.02)	
11	これからの天気について	4.02 (1.17)	3.69 (1.66)	
12	芸術、芸能、スポーツのことについて	4.30 (1.43)	4.18 (1.38)	
13	麻雀、将棋などゲームのやり方について	2.91 (1.83)	3.07 (1.97)	
14	ギャンブルの当たり券の番号	3.86 (2.17)	3.73 (2.14)	
15	車、バイクを上手に運転する方法	1.20 (1.67)	1.22 (1.77)	
16	スポーツがうまくなる方法	1.52 (1.69)	1.57 (1.36)	
17	大学、サークル等所属する集団のことについて	3.17 (1.68)	3.56 (1.57)	
18	歌がうまくなる方法	4.08 (1.68)	4.23 (1.11)	
19	話題になっている事件の真相	1.63 (1.37)	1.42 (1.49)	
20	試験あるいは宿題の答え	5.45 (1.17)	5.32 (1.21)	
21	お金を貯める方法	1.86 (1.15)	5.06 (1.28)	
22	条件のいいバイト先	5.38 (1.21)	5.43 (1.23)	
23	レポートの書き方	1.98 (1.27)	5.23 (0.90)	
24	自分の運動能力について	3.72 (1.53)	3.64 (1.59)	
25	自分の感情、考え方について	4.30 (1.61)	4.64 (1.43)	
26	自分の体力および健康状態について	4.33 (1.35)	4.13 (1.21)	
27	自分の性格について	1.40 (1.19)	4.69 (1.29)	
28	自分をコントロールする方法	4.21 (1.69)	4.61 (1.17)	
29	健康管理の方法	4.14 (1.38)	4.13 (1.21)	
30	精神的に大人になる方法	4.14 (1.68)	4.48 (1.13)	
31	自分の能力、適正について	4.83 (1.16)	4.87 (1.30)	
32	理想的な自分になれる方法	4.76 (1.59)	4.77 (1.26)	
33	体力をつける方法	4.01 (1.57)	3.77 (1.31)	
34	社会情勢について	1.00 (1.32)	4.01 (1.36)	
35	経済に関連することについて	3.53 (1.39)	3.50 (1.46)	
36	今後の経済について	3.78 (1.34)	3.50 (1.40)	
37	政治に関連することについて	3.38 (1.35)	3.18 (1.42)	
38	歴史・文化について	3.35 (1.67)	3.59 (1.46)	
39	日本の将来について	3.79 (1.64)	3.76 (1.42)	
40	科学的知識および科学的技術について	2.94 (1.70)	2.97 (1.68)	
41	宇宙に関することについて	3.67 (1.70)	3.48 (1.81)	
42	世界の未来について	3.96 (1.63)	3.69 (1.57)	
43	他者の近況について	2.98 (1.46)	3.01 (1.39)	
44	他者の今後の行動	2.83 (1.51)	2.90 (1.43)	
45	他者の気持ちあるいは考え	4.05 (1.52)	4.15 (1.52)	
46	他者の過去あるいは秘密	2.90 (1.68)	3.15 (1.63)	
47	他者の将来について	2.71 (1.46)	2.72 (1.48)	
48	他者が自分をどう思っているか	1.57 (1.39)	4.64 (1.39)	
49	他者の年齢	2.07 (1.58)	2.15 (1.50)	
50	他者の収入	2.21 (1.69)	2.07 (1.42)	
51	幸せになる方法	4.65 (1.53)	4.92 (1.36)	
52	頭が良くなる方法	4.80 (1.45)	4.97 (1.30)	
53	今度取得できる単位数	5.03 (1.20)	4.94 (1.20)	
54	4年間で卒業できるのか	4.89 (1.59)	4.85 (1.36)	
55	結婚相手について	4.25 (1.82)	4.14 (1.76)	
56	出世する方法	4.65 (1.59)	4.40 (1.48)	
57	自分の将来について	4.84 (1.58)	4.63 (1.86)	
58	単位および良い成績の取り方	5.28 (1.12)	5.19 (1.15)	
59	自分の寿命について	2.97 (2.07)	2.68 (1.95)	
60	超能力に関連することについて	2.76 (1.99)	2.36 (1.87)	
61	死後の世界および霊の存在について	2.64 (2.08)	2.18 (1.97)	
62	宇宙人、UFOの存在	2.89 (2.20)	2.38 (1.99)	
63	1999年地球は滅びるか	2.67 (2.26)	2.67 (2.14)	
64	人間の進化について	2.84 (1.67)	2.53 (1.74)	
65	人間の身体のことについて	3.11 (1.41)	2.97 (1.33)	

Table 3 自尊感情高条件(n=44)と自尊感情低条件(n=47)の各項目の平均評定値および標準偏差

項目	自尊高条件		自尊低条件	
	Mean	(SD)	Mean	(SD)
1	ある商品の発売日	3.43 (1.48)	3.89 (1.72)	
2	あるものの値段について	4.63 (1.20)	4.41 (1.38)	
3	電車、バスの時刻	4.25 (1.61)	4.27 (1.62)	
4	地理、道路について	3.90 (1.49)	4.06 (1.15)	
5	観光地、プレイスポット、タウン情報について	4.54 (1.40)	4.29 (1.39)	
6	今日のテレビ番組について	4.13 (1.48)	4.25 (1.15)	
7	休講に関連することについて	5.52 (1.13)	5.38 (0.96)	
8	チャンプルの勝ちかた	4.29 (1.69)	4.36 (1.93)	
9	先生の成績のつけ方について	5.04 (1.36)	5.19 (0.96)	
10	免許、資格の取り方	4.79 (1.13)	4.95 (1.04)	
11	これからの天気について	4.18 (1.29)	3.95 (1.68)	
12	芸術、芸能、スポーツのことについて	4.34 (1.34)	4.36 (1.43)	
13	麻雀、将棋などゲームのやり方について	2.88 (1.94)	3.29 (2.05)	
14	チャンプルの当たり券の番号	4.11 (2.08)	3.87 (2.06)	
15	車、バイクを上手に運転する方法	4.01 (1.86)	4.17 (1.76)	
16	スポーツがうまくなる方法	4.59 (1.84)	4.72 (1.36)	
17	大学、サークル等所属する集団のことについて	3.68 (1.73)	3.57 (1.70)	
18	歌がうまくなる方法	4.06 (1.70)	4.53 (1.24)	
19	話題になっている事件の真相	4.51 (1.40)	4.53 (1.47)	
20	試験あるいは宿題の答え	5.40 (1.22)	5.14 (1.23)	
21	お金を貯める方法	4.65 (1.58)	5.17 (1.23)	
22	条件のいいバイト先	5.31 (1.32)	5.51 (1.21)	
23	レポートの書き方	4.90 (1.34)	5.10 (0.85)	
24	自分の運動能力について	3.90 (1.52)	3.72 (1.69)	
25	自分の感情、考え方について	4.40 (1.63)	4.57 (1.58)	
26	自分の体力および健康状態について	4.47 (1.51)	4.02 (1.34)	
27	自分の性格について	4.43 (1.59)	4.65 (1.38)	
28	自分をコントロールする方法	4.31 (1.59)	4.68 (1.27)	
29	健康管理の方法	4.25 (1.48)	4.19 (1.11)	
30	精神的に大人になる方法	4.06 (1.59)	4.44 (1.51)	
31	自分の能力、適正について	4.95 (1.38)	4.85 (1.39)	
32	理想的な自分になれる方法	4.72 (1.49)	4.97 (1.22)	
33	体力をつける方法	4.11 (1.64)	3.85 (1.38)	
34	社会情勢について	3.93 (3.31)	4.00 (1.45)	
35	経済に関連することについて	3.45 (1.37)	3.46 (1.39)	
36	今後の経済について	3.70 (1.39)	3.51 (1.45)	
37	政治に関連することについて	3.22 (1.34)	3.29 (1.54)	
38	歴史・文化について	3.18 (1.54)	3.72 (1.47)	
39	日本の将来について	3.90 (1.63)	3.72 (1.47)	
40	科学的知識および科学的技術について	2.90 (1.66)	3.21 (1.70)	
41	宇宙に関することについて	3.63 (1.72)	3.57 (1.66)	
42	世界の未来について	3.86 (1.71)	3.80 (1.61)	
43	他者の近況について	3.06 (1.57)	2.87 (1.42)	
44	他者の今後の行動	3.00 (1.62)	2.70 (1.41)	
45	他者の気持ちあるいは考え	4.29 (1.42)	3.97 (1.56)	
46	他者の過去あるいは秘密	3.06 (1.78)	3.23 (1.63)	
47	他者の将来について	3.09 (1.62)	2.74 (1.49)	
48	他者が自分をどう思っているか	4.84 (1.37)	4.53 (1.53)	
49	他者の年齢	2.22 (1.77)	2.25 (1.42)	
50	他者の収入	2.34 (1.89)	2.00 (1.36)	
51	幸せになる方法	4.65 (1.42)	5.00 (1.39)	
52	頭が良くなる方法	4.90 (1.36)	5.06 (1.22)	
53	今度取得できる単位数	5.11 (1.26)	5.00 (1.12)	
54	4年間で卒業できるのか	4.90 (1.65)	4.97 (1.27)	
55	結婚相手について	4.43 (1.74)	4.06 (1.72)	
56	出世する方法	4.52 (1.57)	4.31 (1.54)	
57	自分の将来について	4.90 (1.61)	4.44 (1.98)	
58	単位および良い成績の取り方	5.13 (1.28)	5.29 (0.90)	
59	自分の寿命について	3.22 (2.19)	2.51 (1.97)	
60	超能力に関連することについて	3.20 (2.08)	2.51 (1.77)	
61	死後の世界および霊の存在について	2.93 (2.18)	1.97 (1.81)	
62	宇宙人、UFOの存在	3.38 (2.28)	2.12 (1.75)	
63	1999年地球は滅びるか	3.00 (2.31)	2.61 (2.04)	
64	人間の進化について	2.93 (1.75)	2.12 (1.69)	
65	人間の身体のことについて	3.09 (1.42)	2.87 (1.36)	

討するために、自尊感情高群と自尊感情低群の情報興味空間を構成するそれぞれの因子に負荷する項目の1項目あたりの平均評定値を求め (Table 1), それぞれの因子ごとに、両群間でt検定を行った。現在自己関連因子 ( $t=0.50, df=158$ ), 将来自己関連因子 ( $t=0.46, df=158$ ), 他者関連因子 ( $t=0.35, df=158$ ), 生活関連因子 ( $t=0.03, df=158$ ), 社会関連因子 ( $t=0.44, df=158$ ), 神秘的現象関連因子 ( $t=1.40, df=158$ ), いずれの因子においても両群間に有意な差は認められなかった。

最後に、自尊感情が情報に対する興味に及ぼす効果を各項目ごとに検討するために、自尊感情高群と自尊感情低群の興味測定項目のそれぞれの項目に対する平均評定値を求め (Table 2), 各項目ごとに両群間においてt検定を行った。その結果、“自分をコントロールする方法”という項目にのみ有意な傾向が認められたが ( $t=1.84, df=158, p<.10$ ), それ以外の項目には有意な差は認められなかった。

以上の結果からは、自尊感情が情報に対する興味に及ぼす効果はほとんど認められない。そこで、自尊感情の操作の妥当性に着目し、自尊感情尺度の結果をみると、被験者全体の自尊感情尺度の合計点の平均値は21.98であり、標準偏差は6.78であった。これに自尊感情尺度の測定範囲が0から40の間であることを考え併せれば、自尊感情尺度の測定結果が中心化傾向を示していることがわかる。したがって、平均値を基準にして被験者を折半することにより行った自尊感情の操作は有効とはいえない。

そこで、自尊感情の操作の方法を変化させ、自尊感情尺度の合計点によって、被験者をほぼ同数になるように4群に分割し、4群の中で最も自尊感情尺度の合計点が高い被験者群を自尊感情高群、最も低い被験者群を自尊感情低群に割り当てた。その結果、自尊感情高条件には自尊感情尺度の合計点26以上の被験者が割り当てられ、自尊感情低条件には自尊感情尺度の合計点18以下の被験者が割り当てられた。そして、両群の興味測定項目のそれぞれの項目に対する平均評定値を求め (Table 3), 各項目ごとに両群間においてt検定を行った。その結果、“レポートの書き方” ( $t=2.11, df=89, p<.05$ ), “死後の世界および霊の存在について” ( $t=2.27, df=89, p<.05$ ), “宇宙人、UFOの存在” ( $t=2.96, df=89, p<.01$ ) という3項目において有意な差が認められ、“お金を貯める方法” ( $t=1.72, df=89, p<.10$ ), “歴史・文化について” ( $t=1.71, df=89, p<.10$ ), “超能力に関連することについて” ( $t=1.71, df=89, p<.10$ ) という3項目において有意な傾向が認められた。

この結果は、もちろん、自尊感情が情報に対する興味に影響を及ぼすことを示すものであるが、それは予測されたような顕著な効果ではない。そこで、なぜ自尊感情が情報に対する興味に及ぼす顕著な効果が認められなかったのかについて考えてみると、その理由として次の2点を指摘することができる。

ひとつは、指標の妥当性の問題である。本研究で情報に対する興味を測定するために用いられた指標は、情報を統合的にとらえることを意図して構成されたものであり、全般的に興味が高い情報より構成されているうえに、それぞれの項目において記述された情報は抽象性がきわ



めて高い。したがって、この指標には、自尊感情が情報に対する興味に及ぼす効果が鋭敏に反映されなかったという解釈が成立する。

もうひとつは、自尊感情という1つの視点のみからは、自尊感情が情報に対する興味に及ぼす効果をとらえることができないという解釈である。本研究は、自尊感情が問題解決過程を方向づけ、それがさらに情報に対する興味に影響を及ぼすとの仮説に基づいて行われたものである。しかし、本研究においては、その影響を媒介する問題解決過程は、剰余変数として均衡化が図られたにすぎず、被験者が自己に注意を向けているのか否か、自己のいかなる側面に注意を向けているのか、また、被験者がいかなる問題を認識しているのかといった要因に関しては、操作あるいは測定はなされなかった。しかし、これらの要因によって、自尊感情が情報に対する興味の強さに及ぼす効果が異なってくることは十分推測されるところである。

ただし、この点に関して、本研究はひとつの示唆を提供することが可能である。本研究においては、自己意識尺度を併せて測定している。自己意識尺度は、自己の内的側面に注意を向ける傾向を測定する私的自己意識尺度、自己の外的側面に注意を向ける傾向を測定する公的自己意識尺度、および他者が存在する状況における動揺のしやすさを測定する社会的不安尺度より構成されている。したがって、傾向あるいは特性としての自己に対する注意の方向性と自尊感情が、情報に対する興味に及ぼす効果を分析することが可能である。

そこで、本研究においては、最後に、自尊感情と私的自己意識が、また、自尊感情と公的自己意識が、興味測定項目全体に、また情報興味空間を構成する各因子に対する興味の強さに交互作用効果を及ぼすか否かを検討してみる。

まず、自尊感情と私的自己意識が情報に対する興味に及ぼす交互作用効果をみるために、自尊感情尺度および私的自己意識尺度のそれぞれの合計点の平均値を基準にして、それぞれ高低の2水準に操作し、被験者を4つの群に割り当て、各群の全情報測定項目の1項目あたりの平均評定値、および情報興味空間を構成するそれぞれの因子に負荷する項目の1項目あたりの平均評定値を算出した。その結果は、Table 4 に示すとおりである。まず、興味測定項目全体に対して、2×2の分散分析を行った結果、自尊感情と私的自己意識との交互作用効果は認めら

Table 4 各条件の平均評定値（自尊感情×私的自己意識）

条件	人数	現在自己 関連因子	将来自己 関連因子	他者 関連因子	生活 関連因子	社会 関連因子	神秘的事象 関連因子	情報興味 空間全体
自尊感情高-私的自己意識高条件	36	4.69	4.50	3.28	4.52	4.16	2.84	4.12
自尊感情高-私的自己意識低条件	48	3.99	4.68	2.87	4.32	3.98	2.81	3.89
自尊感情低-私的自己意識高条件	39	4.53	4.71	3.32	4.45	3.97	2.86	4.09
自尊感情低-私的自己意識低条件	37	4.21	4.33	2.88	4.35	3.96	2.16	3.83

れなかった ( $F=0.17, df=1/159$ )。次に、各因子ごとに、2×2の分散分析を行った結果、自尊感情と私的自己意識との交互作用効果の傾向が、将来自己関連因子 ( $F=3.34, df=1/159, p<.10$ )

および神秘的事象関連因子 ( $F=2.85, df=1/159, p<.10$ ) において認められた。しかし、現在自己関連因子 ( $F=1.16, df=1/159$ )、他者関連因子 ( $F=0.00, df=1/159$ )、生活関連因子 ( $F=0.19, df=1/159$ )、社会関連因子 ( $F=0.20, df=1/159$ ) においては、自尊感情と私的自己意識との交互作用効果は認められなかった。

次に、自尊感情と公的自己意識が情報に対する興味に及ぼす交互作用効果をみるために、自

尊感情尺度および公的自己意識尺度のそれぞれの合計点の平均値を基準にして、高低の2水準に操作し、被験者を4つの群に割り当て、全情報測定項目の1項目あたりの平均評定値、および情報興味空間を構成するそれぞれの因子に負荷する項目の1項目あたりの平均評定値を算出

Table 5 各条件の平均評定値 (自尊感情×私的自己標識)

条件	人数	現在自己	将来自己	他者	生活	社会	神秘的事象	情報興味
		関連因子	関連因子	関連因子	関連因子	関連因子	関連因子	空間全体
自尊感情高-私的自己意識高条件	49	4.63	4.75	3.33	4.55	4.07	2.86	4.16
自尊感情高-私的自己意識低条件	35	3.81	4.38	2.65	4.20	4.04	2.77	3.76
自尊感情低-私的自己意識高条件	46	4.45	4.57	3.15	4.45	3.92	2.57	4.00
自尊感情低-私的自己意識低条件	30	4.25	4.47	3.04	4.33	4.04	2.45	3.90

した。その結果は、Table 5 に示すとおりである。まず、情報測定項目全体に対して、 $2 \times 2$  の分散分析を行った結果、自尊感情と公的自己意識との交互作用効果は認められなかった ( $F=2.06, df=1/159$ )。次に、各因子ごとに、 $2 \times 2$  の分散分析を行ったところ、自尊感情と公的自己意識との交互作用効果の傾向が、現在自己関連因子 ( $F=3.51, df=1/159, p<.10$ ) において認められた。しかし、将来自己関連因子 ( $F=0.77, df=1/159$ )、他者関連因子 ( $F=2.71, df=1/159$ )、生活関連因子 ( $F=1.15, df=1/159$ )、社会関連因子 ( $F=0.13, df=1/159$ )、および神秘的事象関連因子 ( $F=0.03, df=1/159$ ) においては、自尊感情と公的自己意識との交互作用効果は認められなかった。

この結果は、自己の内的な側面に注意を向けやすい傾向をもち、なおかつ自尊感情が高い個人は、自己の現実に関わる情報をより強く求めること、それに対して自己の外的な側面に注意を向けやすい傾向をもち、なおかつ自尊感情が高い個人は自己の将来に関わる情報をより強く求めることを示している。ここに、自尊感情尺度の合計点が中心化傾向を示していること、自己意識尺度は自己に向ける注意の方向性をあくまでも特性としてとらえたものであることを加味すれば、この結果は、自己のいかなる側面に注意を向けるのかによって、自尊感情が特定の情報に対する興味を変動させること十分示唆するものである。よって、自己への注意の方向性と自尊感情を同時に操作し、それが情報に対する興味にいかなる影響を及ぼすかを鋭敏な指標を用いて分析することが今後の課題となろう。

## 引用文献

- Brown, J. D., & Mankowski, T. A. 1993 Self-esteem, mood, and self-evaluation: Changes in mood and the way you see you. *Journal of Personality and Social Psychology*, 64, 421-430.
- Buss, A. H. 1980 *Self-consciousness and social anxiety*, San Francisco, Freeman.
- Carver, C. S. 1979 A cybernetic model of self-attention processes. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37, 1251-1281.
- Carver, C. S., & Scheier, M. F. 1981 *Attention and self-regulation: A control-theory approach to human behavior*. Springer Verlag.
- Coopersmith, S. 1967 *The antecedents of self-esteem*. Freeman.
- Duval, S., & Wicklund, R. A. 1972 *A theory of objective self-awareness*. Academic Press.
- Fenigstein, A., Scheier, M. F., & Buss, A. H. 1975 Public and private self-consciousness: Assessment and theory. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 43, 522-527.
- Festinger, L. 1954 A theory of social comparison processes. *Human Relations*, 7, 117-140.
- Festinger, L. 1957 *A theory of cognitive dissonance*. Stanford University Press.
- Friend, R. M., & Gilbert, J. 1973 Threat and fear of negative evaluation as determinants of locus of social comparison. *Journal of Personality*, 41, 328-340.
- Greenwald, A. G. 1980 The totalitarian ego: Fabrication and revision of personal history. *American Psychologist*, 35, 603-618
- 岩淵千明・田淵創・中里浩明・田中國夫 1981 自己意識尺度についての研究 日本社会心理学会第22回大会発表論文集 37-38.
- 神山貴弥・藤原武弘 1989 認知欲求尺度に関する基礎的研究 広島大学総合科学部紀要Ⅲ, 13, 1-9.
- Markus, H. & Wulf, E. 1987 The dynamic self-concept: A social psychological perspective. *Annual Review of Psychology*, 38, 299-337.
- 西迫成一郎・森上幸夫・桑原尚史 1996 情報興味空間の構造の分析 関西大学総合情報学部紀要「情報研究」, 第3号, 43-51.
- Rosenberg, M. 1965 *Society and adolescent self image*. Princeton University Press.
- Swann, W. B., Jr. 1983 Self-verification: Bringing social reality into harmony with the self. In J. Suls & A. G. Greenwald (Ed.), *Psychological perspective on the self*. Vol. 2, Pp.33-66. Erlbaum.
- 清水秀美・今栄国晴 1981 STATE-TRAIT ANXIETY INVENTORY の日本語版(大学生用)の作成 教育心理学研究, 29, 62-67.
- Tesser, A. 1988 Toward a self-evaluation maintenance model of social behavior. in Berkowitz, L. (ed) . *Advances in experimental social psychology*,

21. Pp.181-227. Academic Press.
- Wicklund, R. A. 1975 Objective self-awareness. *Journal of Experimental Social Psychology*, 8, 233-275.
- Wilson, S.R. & Benner, L.A. 1971 The effects of self-esteem and situation on comparison choices during ability evaluation. *Sociometry*, 34, 381-397.
- 山本真理子・松井豊・山成由紀子 1982 認知された自己の諸側面の構造  
教育心理学研究, 30, 64-68.
- Zuckerman, M. 1979 Attribution of success and failure revisited, or:  
The motivational bias is alive and well in attribution theory.  
*Journal of Personality*, 47, 245-287.